

長良川9.12豪雨災害50年 関連イベントについて 木曽川上流水防災協議会(岐阜ブロック) について

関市流域治水協議会

国土交通省中部地方整備局
木曽川上流河川事務所

半世紀の記憶を未来へつなぐ防災継承プロジェクト

1976年9月、岐阜県を襲った長良川9.12豪雨災害は、地域に甚大な被害をもたらしました。当時、多くの住民が経験した **苦難や、復旧・復興に立ち向かった歴史は、忘れてはならない教訓**です。しかし、50年の歳月が流れ、その記憶は風化しつつあります。自然災害が多発する今、長良川9.12豪雨災害の**経験と教訓を次世代へ語り継ぎ、防災意識を高める**ことが私たちの責務です。本関連イベントは、長良川9.12豪雨災害から50年の節目にシンポジウムやパネル展、記録映像制作、広告掲載を含む記念事業を実施します。

実施体制

主催：木曾川水系流域治水協議会

(構成員：上松町、南木曾町、木祖村、王滝村、大桑村、木曾町、岐阜市、大垣市、高山市、多治見市、関市、中津川市、美濃市、瑞浪市、羽島市、恵那市、美濃加茂市、各務原市、可児市、山県市、瑞穂市、本巣市、郡上市、下呂市、海津市、岐南町、笠松町、養老町、垂井町、関ヶ原町、神戸町、輪之内町、安八町、揖斐川町、大野町、池田町、北方町、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村、御嵩町、名古屋市、一宮市、津島市、犬山市、江南市、小牧市、稲沢市、岩倉市、愛西市、清須市、北名古屋市、弥富市、あま市、大口町、扶桑町、大治町、蟹江町、飛島村、桑名市、いなべ市、木曾岬町、長野県、岐阜県、愛知県、三重県、中部森林管理局、東海農政局、長野地方気象台、岐阜地方気象台、名古屋地方気象台、津地方気象台、独立法人 水資源機構、中部地方整備局建設部、木曾川上流河川事務所、木曾川下流河川事務所、多治見砂防国道事務所、越美山系砂防事務所、新丸山ダム工事事務所、木曾川水系ダム統合管理事務所)

リレーパネル展 デジタルサイネージ

長良川沿川市町の市役所・図書館・商業施設、木曾三川公園等で展示し、当時の被害や復旧活動の写真を中心に沿川住民・災害を知らない世代に当時の災害を振り返る場とする

●期間：2026年6月中旬から9月



▲イメージ

<パネル展>

場所：岐阜県、岐阜市、大垣市、羽島市、瑞穂市、海津市、輪之内町、安八町、桑名市、木曾三川公園、各河川事務所等

<デジタルサイネージ>

場所：岐阜バス
(ぎふバスチャンネル)
木曾三川公園
各防災関係イベント
各河川事務所等

半世紀の記憶を社会に広げるメディア活用

メディアの発信力で防災を“自分ごと化”し、地域の防災意識を底上げする取り組み

取組

▶メディアと協働した発信強化

- ・災害記録写真及び映像の掘起こしとデジタルアーカイブ
- ・TV・新聞・WEBの特集・ドキュメンタリーシリーズ広報(雨の降り方の激甚化～被害の発生～災害の復旧)
- ・パートナー契約(協力メディア名)の明記による win-winの関係
- ・各メディア公式SNSによる短尺映像(若者向け)

▶「プッシュ型」による情報発信

- ・ブリーフィングによる事前説明会の実施
- ・プレスキットの提供
- ・災害現場で働くクルマ展(信長ゆめ広場)

効果

▶メディア活用で 防災意識が大幅に向上

- ・防災意識が高まることによる水防団員の拡大
- ・テレビでの放映やSNS等により身近に災害を“自分ごと化”

長良川9.12豪雨災害 50年シンポジウム

～今、災害の危機が訪れたら、どう動く？～

9.12豪雨災害を多角的に振り返り、気象・避難・教育・地域連携の視点から防災力向上を考える

日時：2026年9月12日(土)
13:30～16:00
場所：じゅうろくプラザ

プログラム(案)

1. 開会挨拶
2. プロローグ
9.12災害を振り返る
3. 講演
水害は「自然現象」か、「社会現象」か
4. 防災教育の取り組み紹介
5. パネルディスカッション
今、9.12豪雨災害の危機が訪れたら、私たちはどう動く？

NIPPON防災資産で学ぶ 水害の歴史と教訓

全国的にも価値の高いNIPPON防災資産で、過去の水害を展示し教訓を伝える取り組みを実施

実施場所

・大垣市輪中生活館
 ・木曾三川公園・輪中ミュージアム



実施内容(仮)

- ・パネル展示
- ・記録映像の放映
- ・輪中文化・治水の歴史と連動展示
- ・来館者の防災意識向上コーナー

長良川9.12豪雨災害50年 関連イベント(案)



長良川9.12豪雨災害50年
～今、災害の危機が訪れたら、どう動く？～
シンポジウム

- 日時 2026年9月12日(土)
13:30～16:00
- 場所 じゅうろくプラザ 他

➤ オープニング

映像上映 (治水の歴史、災害映像、流域治水対策、NIPPON防災資産等の紹介)

➤ プログラム

1. 挨拶【5分】

岐阜市長 柴橋 正直 氏
安八町長 岡田 立 氏

2. プロローグ ～9.12 災害を振り返る～

- 災害の概要 木曽川上流河川事務所長【5分】
- 当時の体験談① 元岐阜市水防協会会長 戸本 敏夫 氏【15分】
- 当時の体験談② 元安八町立結小学校校長 金森 透 氏【15分】

3. 講演「水害は「自然現象」か、「社会現象」か— 9.12豪雨災害から考える、私たちの判断と選択 —」【30分】

○名古屋大学名誉教授 辻本 哲郎 氏

4. 防災教育の取り組み【20分】

○羽島市立桑原学園「防災教育で学んだこと、私たちにできること」

5. パネルディスカッション【50分】

○今、9.12豪雨災害の危機が訪れたら、私たちはどう動く？

登壇パネリスト 岐阜市長、大垣市長、羽島市長、安八町長
報道機関、岐阜県、岐阜地方気象台
木曽川上流河川事務所長
コーディネーター 名古屋大学名誉教授 辻本 哲郎 氏

【開催要旨】

第12回 木曾川上流水防災協議会(岐阜ブロック)を開催し、地域住民の防災意識のより向上を目指すべく令和3年度に設定したソフト対策の目標に対しての各機関の取組結果や取組事例の紹介(安八町、池田町、関市、大野町、木曾川上流河川事務所)を行いました。
また、令和8年度以降は現在の取組を継続・推進するとともに強化していくことを合意しました。

- 日 時： 令和8年5月11日(月) 15:15~16:15
- 場 所： 長良川国際会議場 国際会議室
- 出席者： 45機関(県、市町、気象台等 約55名)
- 議 事： 1)水防災協議会規約
2)「木曾川上流の減災に係る取組方針」令和7年度のフォローアップについて
①令和7年度の取組結果のフォローアップ
②木曾川上流水防災協議会における課題を踏まえた取組事例の紹介
・木曾川上流河川事務所からの事例紹介
・各市町における重要な取組の紹介
3)令和3年度~令和7年度の取組の総括
4)次期取組方針(案)について
5)その他



▲事務局の様子



▲協議会の様子

木曾川上流河川事務所からの取組事例の紹介

【水防体制の強化と水防活動の知識向上を目的とした水防訓練の実施】

- 令和7年4月13日(日)に、水防体制の強化と施設の適正な維持管理を目的とした、長良水防団による長良南町陸閘等の操作訓練・整備点検を実施した。
- 令和7年5月25日(日)に、水防技術の向上・伝承、地域の災害対応能力の向上を目的とした、国、県、市町、水防団・消防団等の関係機関が連携した木曾三川連合水防演習を実施した。
- 水防工法の実施、情報伝達、避難行動等の訓練を組み合わせた総合的な水防演習をリアルに実施した。
- 事前演習として参加する学生を対象に土嚢拵え、月の輪工の実技を実施した。



▲陸閘操作訓練の様子



▲木曾三川連合水防演習の様子

【防災意識向上に向けた広報活動の試行】

- 防災イベントに参加し、「水ぼうさいまちがいさがし」や「水理模型による実演」を実施した。
- まちがいさがしのクリアファイル等のノベルティを配布することで参加者の興味・関心を引くことができ、イベント以外での防災知識の周知拡充を図った。
- 参加者アンケートにより、このようなイベントが防災意識の維持・向上に繋がることが確認できた。



▲広報活動の様子

【水防災教育の促進】

- 水防災に対する自助・共助意識の向上、地域防災力の向上・拡充を目的に、流域内の小学校を対象に防災教育を実施した。
- 今年度は学校の先生に授業をして頂いた。
- 授業後のアンケートでは、「家庭内での水防災の意識が浸透した。」「先生による授業の継続実施が可能」など多様な意見が寄せられた。



▲授業の様子

【市町の取組事例の紹介】

【安八町】 要配慮者支援施設での避難訓練の実施

- ・災害時の施設の入居者の確実な避難を実現させるために、台風により全館停電状態となった中での避難を想定して訓練を実施した。
- ・同想定での訓練は初めての試みであったため、訓練終了後、参加した職員を集めて振り返りの時間を設け、反省点等を集約した。
- ・主な反省点として、フロア間での連絡手段が声掛けのみとなり、意思の疎通が難しかったというものや、避難誘導が完了したかどうかを把握する責任者への報告が出来なかったというものが挙げられた。
- ・反省点を踏まえ、インカム等のICT機器の導入を検討することとなった。



▲避難訓練の様子



▲振り返りの様子

【池田町】 要配慮者支援施設での避難訓練の実施

- ・町内福祉施設にて、防災知識の共有、役割を事前に確認し、災害時の混乱を防ぐことを目的に、通報から移動、家族への引き渡しまでを想定した訓練を実施した。
- ・これにより、水害時の避難行動を具体的に理解し、適切な対応力を向上することができた。
- ・また、実際の避難シミュレーションを通じて、施設利用者や職員の役割分担が明確化され、水害への備えの強化、緊急時における地域の安全性向上に貢献した。



▲防災講義の様子



▲避難所までの移動訓練の様子

【関市】 防災士の学び直しのための研修の実施

- ・地域と連携して防災対策の普及啓発を推進する防災士の育成、市民の自助及び共助の強化を目的とした講演を実施した。
- ・講師により、防災対策に対する考え方や実践すべき備えや行動についての講義が行われた。
- ・期待される効果として、防災知識をアップデートをすることで、自身の備えや行動を見直すとともに、地域における防災啓発活動に役立てることが期待できる。



▲講演の様子

【大野町】 災害リスクの現地表示の実施

- ・令和3年5月11日に、地域における様々な課題に迅速かつ適切に対応し、地域住民のサービス向上と地域活性化を図ることを目的として「大野町と日本郵便株式会社との包括連携に関する協定」を締結した。
- ・その一環として、災害時における住民の避難誘導を目的に、町内の郵便ポストへ指定避難所や指定緊急避難場所へ誘導するステッカーの貼り付けを行った。
- ・町外より転入した方や土地勘のない方にも避難先を知ってもらい、最寄りの避難所や災害の種別によって、避難先が異なる等の町内の避難所について周知を図る。



▲郵便ポスト



▲貼り付けたステッカー